

humが提案する  
SOLITAIRE RING

humでは中石にラウンドブリリアントカットを使用することがありません。理由は、4C<sup>\*1</sup>という規格がとても工業的だと思ったからです。つまり、透明度と大きさを数字に置き換え、それ以外のダイヤモンドの個性を排除する規格に思えたからです。

そのため、humは少し変わったカットのダイヤモンド、特にローズカット<sup>\*\*3</sup>やクッションカット<sup>\*\*4</sup>を用いるようになりました。これらのカットは4Cのように規格されておらず、原石の特徴や歩留(ぶどまり)<sup>\*\*5</sup>を大切にカットされるため、同じものを反復して作ることはなく、1点しかないダイヤモンドが出来上がるようになりました。これにより、ファッションアイテムとしても楽しんで頂けるようにと考えデザインされています。

ちなみにhumではラウンドブリリアントカットを否定しているわけではありません。メレーダイヤ<sup>\*\*2</sup>にはブリリアントカットを多用しています。



◎今回発表するミルグレインとハムエタ技法を用いたリングの一例  
ミルグレインを用いた装飾技法、もしくはハムエタ(シグネットだとインレイ)と呼んでいる技法で中石をメレーダイヤで取り巻いています。どれも中石の特性に合わせたふさわしいデザインと加工を目指しています。

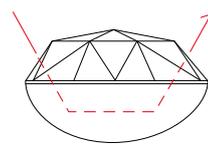
### Collectionで使用する中石のカットについて

ブリリアントカットは、図のように上面のテーブルから入った光を内面で反射させることで強い輝きを放ちます。一方で今回使用するカットの1つでもあるローズカットやステップカット<sup>\*\*6</sup>は光をそのまま通してしまうか、表面で反射してしまいます。

ローズカットが主流だった16世紀～17世紀にかけて作られたジュエリーの多くは、この問題を解決するためにフォイルバック<sup>\*\*7</sup>という技法を用い、見事に反射の問題を克服しています。この技法をインドではKUNDAN(クन्दン)と呼んでおり、humでもKUNDANと呼んでいます。

6世紀後半～17世紀は未だプラチナを溶かす技術がなく、フォイルにシルバーを用いていました。インドでは今でもシルバーを用いていますが、humでは変色しづらいプラチナを用いています。

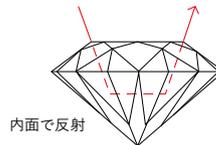
フォイルバック



内面で反射

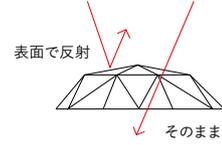
輝くというより「またたく」の方が適切な表現と考えています

◆ブリリアントカット



内面で反射

◆ローズカット



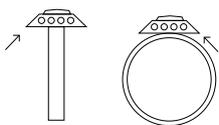
表面で反射

そのまま通す

### リング/裏/サイドの構造と理由

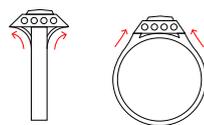
1

図の矢印の部分が袖や手袋に引っかかり扱わずらく、ひっかけて怪我をしたり、リングが壊れる心配がある。



2

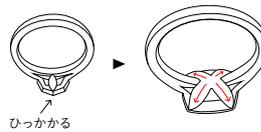
これを解決する方法として、下記のような構造を作り、機能的で美しく仕上がるようにデザイン。



なだらかになり、引っかかりを防ぐ

3

四角などの変形の石については、左の図のデザインは引っかかり対策には不向きであるため、右の図のような仕様にしています。

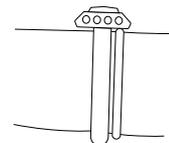


引っかかる

なだらかになり、引っかかりを防ぐ

4

3のような技法を使用した場合でも、2本のリングの重ね付けのご希望があれば、極小小さな中石(4ml以下)にすることで可能となります。



<sup>\*1</sup>4C: ダイヤモンドの品質を評価するための4つの要素、カラー (Color)、クラリティ (Clarity)、キャラット (Carat)、カット (Cut) の意。各項目には基準が設けられており、4Cのうちのカット(Cut)の条件を満たすものがブリリアントカット。  
<sup>\*2</sup>メレーダイヤ: 一般的に0.2カラット未満の小さなダイヤモンドを指す。<sup>\*3</sup>ローズカット: ダイヤモンドのカットのひとつで、バラのつぼみのような形をしており、こんもりとしたドーム状で三角形のファセット面を持ち、底面がフラットな特徴がある。  
<sup>\*4</sup>クッションカット: 宝石のカット形状の一種で、隅を丸く研磨した四角いカット。<sup>\*5</sup>歩留: ダイヤモンドなどの宝石類を原石の段階からカット・研磨して仕上げた際に原石から見た仕上がり時の重さの比率。  
<sup>\*6</sup>ステップカット: 宝石の外周が四角形にかたどられており、側面から見たとき階段 (ステップ) 状になっているカット形状。<sup>\*7</sup>フォイルバック: 宝石の色や光学効果を強める目的で、宝石の裏面を銀箔などで覆った石。